

# タクシー・トゥ・ザ・ダークサイド (原題)

## Taxi to the Dark Side

監督:アレックス・ギブニー／脚本:アレックス・ギブニー／米国 2007年 106分／

製作:アレックス・ギブニー、エヴァ・オーナー、スザンナ・シップマン

第80回米アカデミー 長編ドキュメンタリー賞／2007年度 トライベッカ映画祭ベスト・ドキュメンタリー賞

### 「テロとの戦い」の闇に切り込む、衝撃のドキュメンタリー

ブッシュ政権は、合衆国憲法を書き換えたい。

でも不可能だから、解釈をねじ曲げた。

「戦時下にあつては 政府は何でもできる」と――

### タクシー運転手ディラウォルはなぜ殺されたのか？

2002年12月1日、アフガニスタンのタクシー運転手ディラウォルは3人の客を乗せたまま、二度と家族の元には帰らなかった。ディラウォルは「テロ」容疑者として米兵に引き渡され、バگرام空軍基地の拘禁施設に収容されたのだ。そこで拷問を受け、5日後に死亡した。―― ディラウォルの死を軸に、アレックス・ギブニー監督は、バگرامやイラクのアブグレイブ刑務所、キューバのグアンタナモ収容所で「自白」を引き出すための拷問がいかんにして正当化されていったのか、拷問が現場の「腐ったリンゴ」による行き過ぎた行為ではなく、ブッシュ大統領をトップとした指揮系統に基づいて行われていた事実を浮き彫りにする。

### 「暗闇から脱し、光を取り戻そう」～ アカデミー賞受賞でのアレックス・ギブニーのコメント ～

「妻は、私がロマンチックなコメディを撮ることを期待していたようだ。しかし、グアンタナモ、アブグレイブ、そしてレンディション(国家間秘密移送)の問題を知れば、コメディを撮るなんて不可能だった。この映画は、もはや私たちと共にいることができない、若いタクシー運転手だったディラウォルと、私の父に捧げたい。父はかつて海軍の尋問官で、法の支配が傷つけられたことに激怒し、私にこのドキュメンタリーをつくるよう促してくれた。この国が変わり、暗闇を遠ざけ光を取り戻すよう、期待しましょう」

### アレックス・ギブニー監督 プロフィール

カリフォルニア大学の映画学校で学ぶ。政治や音楽など多彩なジャンルのドキュメンタリーを手がけ、2006年に「エンロン 巨大企業はいかにして崩壊したのか」でアカデミー賞長編ドキュメンタリーにノミネートされるなど、米内外の映画祭で多数の受賞・ノミネート経歴を持つ。

映画をもっと理解するための一冊

### 『グアンタナモ収容所で何が起きているのか～暴かれるアメリカの「反テロ」戦争』

アムネスティ・インターナショナル日本編 合同出版 1300円＋税

好評発売中！